

現代社会におけるレクリエーションの意義と課題 ～保健福祉学の立場から～

同志社大学社会学部・同大学院社会学研究科教授

岡本 民夫 氏

大会テーマと講演までの経緯ならびに講師のご紹介

今大会のテーマを決定するにあたり、レジャー・レクリエーションは人が育つには欠かすことができない、という学会会員にとっては当たり前のような視点が出発点となった。人の育ちに関わるイメージは保育の領域を重複することが多分にある。幼少期に人格形成はおおよそ決まるとか、少年少女のための児童厚生施設では遊びの指導者が配置されているとか、「育ち」は子どもを中心に理解されていることは否めない。

他方、人は生を受け死に至るまでのライフサイクルの中で生きている。歳を重ねる度に、その時々にはふさわしい生き方を学んだり、継承したりして、人として育っていく。つまり、「育ち」は保育の領域にとどまらず、生きる人すべてに関係するという視点に、レジャー・レクリエーション研究はどう対応していくべきかを論じ合おうという主旨で設定された。

今大会のテーマ「共に育つために求められているレジャー・レクリエーション」にあたり、基調講演を岡本民夫先生にお願いした。岡本先生は、長年にわたり日本の社会福祉分野や精神保健福祉分野の発展に貢献されており、1980年代よりメディアやITを駆使した教授法の実践開発にも携わっておられる。また、高校時代に短距離選手、学生時代にはキャンプカウンセラーを経験され、多くのレジャー・レクリエーション研究者と共通した体験をもっておられる。それらの体験については、岡本先生からお話していただく予定であり、ご講演を依頼した理由も理解していただけることと思う。(講演当日、配付資料あり)

岡本 民夫(おかもと たみお)氏略歴

1936年、和歌山県生まれ。関西学院大学文学部卒業後、浅香山病院神経精神科医局臨床心理部に所属。その後、熊本短期大学(現熊本学園大学)教授を経て、1980年より同志社大学。現在、社会学部社会福祉学科教授・大学院社会福祉学研究科教授。

専門分野：社会福祉援助技術(ソーシャルワーク理論史)

社会活動： 元日本社会福祉実践理論学会会長
文部科学省教科書審議会第八部長・会長代理
日本社会福祉学会・学会賞審査委員長
関西社会福祉学会会長
宇治市福祉サービス公社理事長

主著

『ケースワーク研究』(ミネルヴァ書房、1973年)

『医療福祉の研究』(ミネルヴァ書房、1980年)

『世界の社会保障・カナダ』(東大出版会、1998年)

『世界の社会福祉9 アメリカ・カナダ』(旬報社、2000年)

『社会福祉原論』(ミネルヴァ書房、2002年)

ほか、多数